

# 漁況予報 いわし

## 第165号

2011年5～6月漁期  
(2011年5月16日発行)

### ＝ 概況 ＝

#### 【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、3月が57トン、4月が305トン（速報値）であり、いずれも前年（3月16トン、4月111トン）および平年（3月21トン、4月34トン）を大きく上回りました。

魚体は、体長8～11cmのヒラゴ～小羽マイワシが主体で、16～18cmの中羽～大羽マイワシもあわせて漁獲されました。これらはヒラゴ～小羽サイズが2011年生まれの0歳魚、中羽～大羽サイズが2010年生まれの1歳魚が主体と考えられ、ともに例年同期よりも大きなサイズでした。

佐島地区のまき網は、小羽～大羽マイワシを鮮魚として水揚げしたほか、3月中は餌イワシとしてのヒラゴの漁獲もありました。

一方、伊豆諸島海域のサバたもすくい網漁では、2月にひきつづき20～23cmの大羽マイワシが例年になく多く混獲されました。これらは大半が生殖腺が発達した産卵親魚であり、今年の伊豆諸島海域における産卵量が多いことが期待されます。

#### 【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、3月が305トンと前年（491トン）および平年（363トン）を下回り、つづく4月が197トン（速報値）と前年並み（198トン）でしたが平年（483トン）を大きく下回りました。

魚体は、4月には体長7～10cmの未成魚～小型成魚および11～12cmの大型成魚が主体でした。

佐島地区のまき網は、3月中は餌イワシとしての漁獲が継続しましたが、4月には低調な漁模様となりました。

今後もひきつづき、小型成魚および大型成魚が漁獲の主体になると考えられます。

#### 【シラス】

今年も相模湾のシラス漁は3月11日に解禁となりました。3月のシラス漁獲量（標本船データより推定）は、極めて不漁だった前年は上回ったものの平年を大きく下回り（前年比3.9倍、平年比0.5倍）、つづく4月は前年、平年をともに下回る漁模様でした（前年比0.8倍、平年比0.7倍）。これは主に湾東部の漁場で4月中旬までまとまった漁獲が認められなかったことによるもので、4月下旬に黒潮系暖水の波及があった後は湾内全域で漁が本格化しました。

漁獲物は、各漁場ともマシラス（マイワシ仔魚）の混獲率が例年よりも高く、多い漁場では8割近くがマシラスで占められていました。

今後は、例年どおりカタクチシラス（カタクチイワシ仔魚）が漁獲主体になると考えられます。

### ＝ 予報 ＝

#### 【マイワシ】

今漁期は、2011年生まれのヒラゴ～小羽マイワシ（体長14cm以下）が漁獲主体となり、2010年生まれの中羽～大羽マイワシ（体長16cm以上）も漁獲されるでしょう。

今漁期の漁獲量は、マイワシ太平洋系群の資源量から、前年を上回る約540トンと予測されます。

\* グラフ縦軸：主要定置網+まき網

#### 【カタクチイワシ】

今漁期は、小型成魚（10～11cm）および大型成魚（12cm以上）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、3、4月の定置網漁獲量から、前年並みの約1200トンと予測されます。

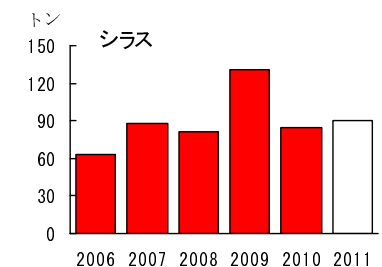
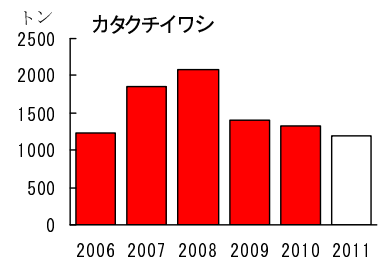
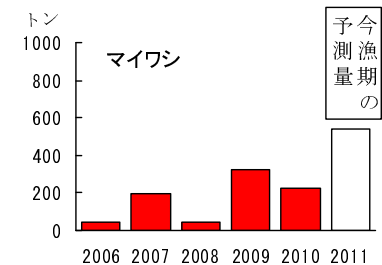
\* グラフ縦軸：主要定置網+まき網

#### 【シラス】

今漁期は、前期に引き続き春生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、カタクチイワシの大型成魚資源量指数から、前年並みの約90トンと予測されます。

過去5年の5・6月漁期の漁獲量  
と今漁期の予測量



神奈川県水産技術センター資源環境部  
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313